

条件分岐(後半)

基本編3日目

if文のネスト

- if文の中に、更にif文を入れることが出来る。
- ネスト・入れ子と言う。

```
if (条件①) {
                                             条件① (True)
      (条件(2)
                                             条件②(True)
       処理(1)
     else
                                             条件① (True)
       処理②
                                             条件② (False)
 else {
   処理③
                                             条件① (False)
```

論理式との組み合わせ①

- && (論理積:AND)・・・ AかつB
 - if(条件式① && 条件式②) → 条件式①と②が両方成り立つ
- || (論理和: OR) · · · · AかB
 - if(条件式① ||条件式②) → 条件式①か②どちらかが成り立つ
- •!(否定:NOT) · · · A ではない
 - if(!(条件式①)) → 条件式①が成り立たない

AND演算

No	左辺	右辺	演算結果
1	True	True	True
2	True	False	False
3	False	True	False
4	False	False	False

OR演算

No	左辺	右辺	演算結果
1	True	True	True
2	True	False	True
3	False	True	True
4	False	False	False

if文のネストと論理式のサンプル

Sample304

```
if(1 \le dice \&\& dice \le 6)
  // さいころの目が、偶数か、奇数かで、処理を分ける。
  if(dice == 2 || dice == 4 || dice == 6)
    Console.WriteLine("丁 (チョウ) です。");
  }else{
    Console.WriteLine("半(ハン)です。");
}else{
  Console.WriteLine("範囲外の数値です。");
```

switch文①

Sample305

- 式の値を条件とし取る値事に処理を分岐させることができる。
- switch()の()内に判断に用いる変数を入れる
 - 例: switch(a)
- caseで値を場合分けする
 - case 1:
- defaultは、caseのいずれにも当てはまらない場合
- 各処理は原則breakで区切ること!

swicth文②

```
swich(式) {
   case 值1:
                            式が値①
                            をとるとき
            処理①
     break;
   case 值②:
                            式が値2
                            をとるとき
            処理②
     break;
   default:
                          式がそれ以外の値
                            をとるとき
            処理④
```